



「探究的な学び」の必要性！

4月、国際総合科では、今年度の「探究学習」をスタートさせました！

1年生では、4月18日に関西国際大学の副学長・山下泰生教授を招き、「探究学習ってなんだ」というタイトルでお話をいただきました。探究学習は調べ学習とは違い、自ら「問い」を設定し、仮説を立て、問題の解決に向けて調査・情報収集・分析・考察・まとめの作業を行うことで、活動の中で新たな問いが生まれ、次々と学びが深まり、「物事の本質を明らかにすること」を目指すことであるというお話を伺いました。4月22日には、2年生の昨年度の発表（代表班）に触れる機会も設けました。1年生は今年度の活動のイメージを持ってくれたことではないでしょうか。

また、2年生の「国際研究Ⅰ」では三木市国際交流協会の事務局長・河越恭子さんをお招きし、三木を中心とした異文化交流の具体的事例についてお話をうかがいました。

三木市では2015年頃から在留外国人が増え始め、今では2千人弱の外国人の方が住んでおられます。ウクライナからの「避難民」は現時点ではおられません。2011年のシリア内戦を逃れて三木に来られた方は多く、身近な地域のことから、国際的な問題を学ぶことが可能であることを改めて知る機会となりました。

三木市国際交流協会は25周年を迎えられ、それを記念して作られた動画「今、耳を傾ける」(全90分の一部)も見せていただき、三木の小・中学校で学ぶ外国にルーツを持つ児童・生徒の「生」の声に生徒たちは真剣に聞き入っていました。興味・関心のある方は、ぜひ、上のQRコードから視聴してみてください。



普通科も探究！

昨年度までも、普通科でも探究活動に取り組んできたのですが、今年度はそれをさらに発展・深化させたいと、私たち国際・探究推進部では考えています。

SDGsをテーマとした課題研究活動、様々な外部イベントへの応募、小論文講座、3年生では志望動機の執筆や模擬面接練習などを通して進路意識をより明確で強固なものにするなど、それぞれの学年で活動を始めています。

1年生普通科では、「充実した三木高生活を送るために」というテーマで、「K」法を用いてグループ討議を行い、各クラスでプレゼンテーションを行いました。普段の座学とは違

った、「答えがひとつではない問題」に対する対処、対話的な学び、フィールドワーク等を楽しみ、またそこで培われた主体性がそれぞれの教科学習にも活きたらと、私たちは期待をしています！



「受験を振り返って」

関西外国語大学 英語キャリア学部 S・D

僕は1年から3年の5月ごろまでサッカー部に入っていました。部活動に入っている間はそのことしか考えられず、勉強はテスト期間に焦ってやるということがほとんどでした。「部活辞めたらめっちゃ勉強する！」と僕は思っていました。同じような考えの人も結構いるのではないのでしょうか。部活動からやっとな解放されたから、部活動ではあれだけ頑張ることができたから絶対受験勉強もできるという自信が僕にはありましたが、そんなことは一切ありませんでした。運動と同じように今までしてこなかったことをいきなりするというのはとてもしんどいし、絶対に長続きしません。毎日単語を10個覚えるとか、教科書を1ページ読んで覚えるとかでもいいので、「勉強をする筋肉」が落ちないようにしましょう。

また部活動などで時間が無いからこそ、隙間時間を有効に使うのはとても大事です。例えば通学時間や休み時間に単語帳を見たり、英語を聞いたりする。一日で10分ほどしか時間を取ることができなくても、毎日続けることで大きな力をつけることができます。

また、個人的に本をもっと読んでおけばよかったなと後悔しています。小説でも自己啓発本でも新聞でも、とにかく最初はゆっくりでもいいからちゃんと意味を理解して読み文章に慣れておくと、共通テストの長文をすんなり読むことができたり、将来文章を書くときに活きるのではないのでしょうか。何から読み始めたらいいかわからない人はまず現代文の教科書に載っているものをフルで読むと、内容も授業でやったことがあるなら簡単に理解できるし、ちゃんと面白いのでいいかもしれません。

どうしても勉強したくないときは、まだそんなに無理する時期でもないのに、たまには休むことも大事です。また、「勉強しないとイケないと分かっているけど体が言うときかない」みたいなこともあると思います。そんな時は、塾の自習室や図書館など、自分の他にも勉強している人が集まっている場所に行くと、自分も勉強しないとイケないという気持ちになります。

多くのことを書きましたが、実際この方法があなたにとって最善の方法とは限りません。自分が一番集中しやすい勉強の仕方を見つけ、最後まで諦めずに第一志望目指して頑張ってください！



5月の和風月名は「^{さつき}皐月」が有名ですね。では、その意味は？

和風月名は旧暦（明治5年まで使われた太陰太陽暦）に基づき、現在の太陽暦とは1ヶ月程度ズレ（遅れ）ます。「皐月」という呼称には、耕作を意味する古語「さ」から「稲作が始まる月」として「^{さつき}さつき」となった、「^{さなえ}早苗を植える月＝早苗月」を略した、などの説があります。ちなみに、英語の5月「May」は「豊穰を司る大地の女神」のことで、やはり近代以前の主要産業である農業と関連しています。

現在の暦では、5月は単に「5番目の月」ですが、和風月名からは「身近な事象をとおして1年というサイクルを捉える」豊かな文化が感じられます。みなさんが取り組む「総合的な探究の時間」も、「身近な地域の課題をとおして（SDGsなど）普遍的・世界的な課題を探究する」意義ある機会となることを期待します。 【国際・探究推進部長 田尻 淳】

* * * * *

国際総合科3年生の「石垣島研修旅行」(4/13～16)、1年生の「JICA訪問」(5/6)については、次号で詳しく紹介します！